立正大学

RISSHO University Alumni Association Since 2009

立正大学校友会報 No.35

たちばな

2017.10.1

品川キャンパス 学生広場

◆発行／立正大学校友会◆

P.02 平成29年度「校友の集い」ホームカミングデー in 橘花祭のご案内
P.03 平成29年度上期校友会費B等納入者一覧
P.04 平成29年度校友会主催講演会採録
P.09 同窓会会長ご挨拶・物故者追善法要開催報告
P.10 平成29年度同窓会定期総会開催報告
P.11 平成29年熊谷(校舎)キャンパス50周年記念イベント埼玉県北部めぐり
P.12 同窓会支部総会開催報告・剣道部同窓会開催報告
P.13 郵政会会長ご挨拶・平成29年度橘会保護者懇談会開催報告
P.15 BOOK&WOOKS・INFORMATION

平成29年度 校友の集い

ホームカミングデー in 橘花祭開催のご案内

立正大学品川キャンパス 平成29年11月4日（土）11:00～17:00

11：30～16：30	◆ **立正マルシェ** ◇ 大崎・五反田商店街、大崎郵便局、周辺企業参加による物販・展示・相談 など ◇ 橘花祭模擬店団体による模擬店の出店 ◇ 同窓会主催による地方物産展（模擬店） ◇ 東京中小企業家同友会南部協議会によるフリーマーケット	学生広場
11：00～16：00	◆ **大学安置祖師像ご開帳** （仏教学部同窓会 主催）	5号館3階 532教室
15：30～17：00	◆ **ホームカミングデー懇親会**	7号館2階 第2食堂
12：00～16：00（随時）	◆ **古書資料館見学ツアー** （学術情報課 協力）	8号館 地下1階
11：00～17：00	◆ **大学説明会＆大学紹介DVD上映、キャンパスツアー** （入試センター 協力）	9号館地下1階 9B13教室
14：00～16：30	◆ **平成29年度法学部・法制研究所シンポジウム** 『法学部教育における教員養成の意義と課題』 コーディネーター：大島 英樹（法学部教授） （校友会 協賛）	9号館地下2階 9B21教室
14：30～15：30	◆ **橘会就職報告会** （キャリアサポートセンター 協力）	9号館地下2階 9B22教室
10：00～17：00（終日）	◆ **立正大学の歴史（パネル展示）**	9号館 1階通路
11：00～17：00	◆ **乳児のオムツ交換コーナー ・ 授乳コーナーを含む 来場者用キッズコーナー** （社会福祉学部同窓会 主催）	9号館2階 921教室 ※11月3～5日開設
11：00～12：30 13：30～15：30	◆ **OB・OG 先輩を囲む会 ～中学・高校の先生方と話そう～** （教職教育センター・文学部同窓会・地球環境科学部同窓会 協力）	9号館2階 922教室
10：00～12：30	◆ **OB・OG 先輩を囲む会 ～社会を知ろう！先輩と会おう～** （キャリアサポートセンター 協力）	9号館2～4階 923・924・925 941・942・943 教室
11：00～12：30 13：30～15：30	◆ **法学部卒業生異業種交流会 「バンザイ！！君に会えてよかった」** （法学部同窓会 協力）	9号館3階 931教室
12：30～13：30	◆ **校友会主催講演会** 『これからの生活と健康寿命』 講師：原田 壽子（立正大学名誉教授）	9号館3階 932教室
13：30～14：30	◆ **立笑（正）点 寄席**	9号館3階 933教室

※当日の開催スケジュールに関しましては、諸般の事情により変更になる可能性がありますことをご承知おきください。情報は校友会 HP、Facebook にて随時掲載致します。

校友会費Ｂ等納入者芳名（順不同、敬称略）

―ありがとうございました―

《平成 29 年度 上期
（4月1日～8月31日）納入分まで》

お寄せ頂いた会費・寄付金等納入者につきましては、平成 17 年 4 月より個人情報保護法が施行されておりますが、「掲載許可」をいただいた方のみ都道府県名･氏名に限って公表させて頂きました。何卒ご了承下さいますようお願い申し上げます。なお、「掲載許可」に関する詳細につきましては、本紙巻末 INFORMATION 内の『2017 年度校友会費 B（卒業生・現元教職員等会費）のご案内』をご覧下さい。

◆北海道◆
中村啓承
小森登
釋英照
塚本信樹
稲垣見穂
山崎富男
横田定美
今野公一
真鍋郁郎
三浦由喜
阿部潤一
永井健二
林哲彦
伊東正明
河関香寿美
喜多龍一
今裕

◆青森県◆
齊藤誠悦
楠美隆嗣
品田均
漆館栄一
岸玲子
澤口公孝

◆岩手県◆
芝﨑恵應
宇野智謙
渡部紀子
武田勝
西山昌秀
川村均
井上成一
小野寺正典
村野栄司
深井憲昭

◆宮城県◆
阿部邦英
櫻井信也
布施東吉
鹿野知恵
千葉研一
兼重英忠
鈴木潤一郎
風間文静
成田康彦
松田之宏

◆秋田県◆
小棚木麻由美
工藤潤平
海道利夫

◆山形県◆
佐藤毅
秋葉良一
吉田清美
池田孝司
高橋重志

◆福島県◆
浜崎本子
羽田豊秋
小山田祐美子
川名努
鈴木秀鳳
三瓶ユキエ
鈴木務広
大河原勉
山野辺元則
山上大介
髙橋達雄
髙野典子
一条幸一
須藤庄司郎
髙野信二
佐瀬栄

◆茨城県◆
鈴木茂正
三上要玄
大竹克巳
佐藤正人
国谷昭一郎
田口茂
大井川裕代
根本豊
蓬田成男
古平恒雄
福島啓文
長谷川玄應
外山将行
河原亮
大林由美子
飯塚恭孝
串田一也
軽部操

◆栃木県◆
荒居養雄
藤田善久
須藤進太郎
吉田哲
横山隆明
三上隆敏
飯野博之
武藤敏弘
齋藤邦昭
河又啓多郎
上野史夫
吉井栄一
笠原俊一

◆群馬県◆
伊藤賢一
佐藤洋
宮﨑広保
赤坂一郎
小暮達也
村尾洋明
中村宗之
西島岳史
田島等
小林真一
髙瀬得尋
瀧澤秀昭

◆埼玉県◆
井上征英
石川利男
田島初雪
渋谷昌利
小山久夫
神田淳
今井一忠
関根裕子
石井亨
石黒誠
眞野初
髙村信行
二瓶要一
山口雅功
岡野美佐子
栗田純一
鈴木明良
野辺とに子
設楽健士
志賀奈津子
豊田正雄
吉富明義
長嶋義郎
原啓介
斉藤和好
岡部登一
清水海隆
長堀明英
菅野和俊
塚越良介
柳瀬由次
株式会社クジライ
永田榮計
井田保則
中島一真
佐久間晴代
加藤克美
森泉慎一
鈴木規夫
山崎淳一
奥山進次
森守
村木学
佐藤正和
鈴木敏子
坂上豪洋
高橋弘美
長谷川智子
安藤幸次
濵畑芳和
小林正博
石松明長
井上文和
多中友行
樋口景吉
田島美恵子
檜山正夫
大久保禄郎
吉池博子
新井朋子
戸部惠一
吉田栄夫
山﨑光洋
柿沼進
三田敏雄
鈴木順浩
宮﨑憲田
佐藤和己
新井康一
田中一嘉
中村英明
小山和香
山川澄男
柿澤保幸
吉野郁惠
渡邊大延
下田雅之
蓮池優
村井惇匡
吉澤寿子

◆千葉県◆
遠藤了義
小出茂蔵
齋藤文太郎
三浦俊一
影山信雄
小山善之
大塚利行
白井道男
山崎崇弘
星野栄
尾﨑敏明
板橋陽一郎
中山光治
中村廣己
北尾義昭
飯塚通允
西村和男
村松孝治
佐藤誠
木村一男
正木達哉
山本和幸
石毛和美
小川泰功
藤﨑宏道
森文彦
河野浩己
原秀明
天目石一也
穴山清一
大多和拓哉
吉田弘
宮本達也
吉岡明
恩田克巳
金木拓也
十文字佐太吉
山﨑庸男
齊藤岐代未
遠藤広貴
湯原法純
池田善久
藤井秀司
大久保康雄
市川末夫

◆東京都◆
岡部光謙
柴賢悟
田坂裕章
佐藤孝
白井和樹
髙村弘毅
神川清
潮田恒明
田中寛
尾崎文英
矢野眞三
宇都宮鐵彦
阿部定吉
坂井成一
藤森三男
上村裕
川島直一
水谷清
永井啓文
丸山富子
風岡稔
井口範英
初見達郎
横山裕
藤井教戒
猿山保
河又浩昭
福田良行
野口眞澄
竹内敬雅
田邊薫
岸由晴
鈴木正厳
渡邊宝輝
髙橋靖夫
島野隆行
伊藤浩一
長尾政則
水間覚代
平林ちよ子
髙部英彦
金谷善弘
河野庄二
村山一幸
入江祥史
大塚信美
武田悟一
越石まつ江
外山寛穂
吉田文堯
前田康夫
小多喜孝道
油井永式
栗田幸治
小泉雅子
横山隆
光枝海元
ローズ・サミュエル
古田信一朗
森田直子
石田孝造
髙井正廣
水上裕子
芳田守
岩崎望
青木重幸
千田昭弘
織田次朗
西井伽耶
早川典久
漆山越郎
金子明史
中村王彦
山本明
藤井賢次
鈴木由美子
岡昭治
赤塚教乗
内藤乃武雄
野村伸子
丸岡一静
川﨑厚子
吉田明人
津村正信
津村正康
谷藤昌宗
金山秋好
山田清照
相馬竹志
矢口勝博
川﨑史朗
泉田登
宮下正
松山友昭
原田忠彦
中島雄太
町田浩一
髙田和明
髙橋竜太郎
守田貴久
出井紀幸
神義一
渡邊彰良
石井康亘（旧長瀬）
今井正行

◆神奈川県◆
川口利治
脇本譜次男
入澤充
澤野光一
森井茂
名越和人
松村三功
小川浩正
稲眞珠
多賀俊一
西村健
金子竹成
髙橋和広
関根泰幸
丸島光雄
森雅弘
山縣良明
山本惠紀
金井義博
谷田部迪
平本俊弘
石井亮一
綿抜邦彦
時任麻里子
国府田義昭
寺崎力
座間晃
原敏一
増田幸静
長島峰雄
山田竜平
猪脇利夫
荻原洋子
鈴木嘉昭
前田敦
坂本堯則
渡邊英志
肥田泰敬
森田喜久
奥村憲一
長沢隆大
森本宏
鈴木寿弘
田中良平
金子博彦
佐藤正好
小田切俊樹
石川亮
二瓶惠子
二瓶直幸
石井耀心
角田隆茂
大塚昌利
平間健治
會田昭三
佐藤則光
津久井秀樹
貝瀬登
提箸利男
髙橋和也
藤原頼親
丸山邦雄
髙作玄晃
黒田昭司
三澤金一郎
小形能応
鈴木恒美
小楠敏

◆新潟県◆
川崎喜市
村田祐一郎
鈴木正喜
渡邊剛義
小林謙一
後藤哲也
伊藤久美
佐藤幸一
山田正毅
和栗昌夫

◆富山県◆
山本充彦
清水浩二
平永進
坂井尚義
山本毅嗣

◆石川県◆
永田一孝
井前本康
宇佐美孝
飯田毅
坂本哲治

◆山梨県◆
一瀬順司
山田厚
渡辺寛勝
屋敷元信
朝比奈玄馬
平野玄一
宇佐美喜之
遠藤太一
内野日総
藤崎一宜

◆長野県◆
佐藤一郎
林伊都子
佐伯治夫
鈴木勇平
岡田晴雄
小倉光雄
古幡眞理
丸山孝一
遠山裕利
原親男
古屋野順友
櫻井政信
西村善雄
渡辺忠信
前川彰子
望月龍昇
徳嵩一久

◆岐阜県◆
矢野忠臣
井道哲志
森澤久雄

◆静岡県◆
服部有顕
加藤真澄
木村政彦
伊藤通明
矢田多摩子
島田哲生
廣﨑本幸
洲脇誠
則武海源
兼髙裕
森廣
木村光正
深沢勇一
戸坂義孝
福島東
望月真澄
手島英真
角田憲哉
竹内一良
伊藤佳通
遠藤盛宏
鎌倉靖利
渡邊卓也
川手海正
本間裕史

◆愛知県◆
服部智謙
服部智康
市川潮淨
渡邊孝哲
石黒友寛
石黒泰良
深沢友遠
深沢友延
渡邊考哲
伊藤友謙
三浦弘喜

◆三重県◆
飯沼良浩
飯沼幸恵

◆滋賀県◆
杉本正光
市橋茂男
濵敏子

◆京都府◆
長谷川正法
佐藤文則
石田良正
堀田泰盛

◆大阪府◆
山田玄精
山尾啓聖
岡部泰鑑
興田敏夫
菊田俊淨
中西誠
長谷川鳳秀
山中進
口野重昭
井上茂
松葉善太良
石川義亮

◆兵庫県◆
佐竹英文
河村瑞栄
三好一行
山本政彦
吉田英昭
大上雅紀
豊田春喜
草壁尚也
森勝亮
鶴﨑和宏
菊田俊淨
岡田洋一郎
橋本康幸
後藤恵雄
前野洋一
加藤哲生
中村晋立

◆奈良県◆
出沖秀雄

◆和歌山県◆
堀雄幸

◆鳥取県◆
石谷順一郎
榎尾稔正

◆島根県◆
樋野智之
原田宏
古瀬修一
米田宣雄
堀江禎正
錦織勲夫
岡本亮浩
永井正智
大森正義

◆岡山県◆
松本誠
吉田健次
常井仁美
小川憲一
谷本泰法
練尾哲志
長瀬一喜
衣笠通亮

◆広島県◆
小松教清
佐々木信之
中本文幸
鹿内要秀
黒田元
西河内靖泰
関口一清
坂元浩二
村上壽孝
鈴木省三
佐藤敬三
松若賢一
藤井誠
吉村均
兼弘一真
小林信行

◆山口県◆
藤いね子
河上桂子
林幸功
大庭祥秀

◆徳島県◆
森岡豊
音瀬泰彦
須惠泰正

◆香川県◆
大井満明
加茂佳史
野並美恵
井上植惠

◆愛媛県◆
森佳範
松本猛
竹田利夫

◆高知県◆
渡邊泰秀
山中敏弘
浜田俊人

◆福岡県◆
石田陽一
藤川治良
上田智良
角田勝洋
小河原昌彦
大庭順一
工藤統久
久保木研治

◆佐賀県◆
松尾裕見子
春島日郎
辻雅英

◆長崎県◆
村田孝仁
田川邦雄
柴山元帥
今川亮生
貞方明彦
木寺浩三

◆熊本県◆
岡裕二
伊藤一敏
原應仁

◆大分県◆
平林敬
桑野直大
久長修治
伊東祐一
土岐光

◆宮崎県◆
黒木報源
清本英義

◆鹿児島県◆
森田真吾
西原静則

◆沖縄県◆
棚原英治
渡具知武和
古波蔵保成
崎浜靖
宜寿次均
西浜良光

立正大学校友会記念講演会を開催しました

［平成 29 年度立正大学同窓会定期総会 校友会主催講演会採録］

「立正大学の現状と未来」 講師：立正大学 学長　齊藤昇氏

はじめに

こんにちは。齊藤でございます。

今年は立正大学が開校して 145 周年、熊谷キャンパス開設 50 周年という節目を迎えます。また、経営学部も開設されて 50 周年になります。来年は地球環境科学部が開設 20 周年を迎えます。それぞれが節目を迎え、立正大学としても持続性のある体制を提示しながら、未来に向けた様々な取組みを着実に実施していくことになります。

熊谷キャンパス

今日ご参加されている髙村元学長、鏡味先生（元文学部教授）の時代には大学設置基準が厳しく、学生 1 人当たりの面積、図書の数、博士課程を担当して主査ができる資格を有した先生方を集めないと大学院の設置は難しい時代であり、要件をそれに準拠していましたが、大綱化という時代を経て、現在は自分たちのことは自分たちで考えなさいとの文科省からの行政指導の取り扱いが定められていますが、それらはむしろ以前より種々のチェックが厳しいと判断していただいて結構だと思います。そのような中で私立大学を適正に運営していかなければなりません。

立正大学は私立大学の中でも、輝かしい歴史と伝統を持つ大学です。日本私立大学連盟（私大連）という組織がありますが、今年の 3 月に大東文化大学の加入が認められ、そのメンバーが 123 校になりました。他には日本私立大学協会（私大協）という組織があって 407 校が加入しています。私大連は限定された 123 校の中で知恵を出し合い、いろいろな問題や課題を解決するために毎年 3 ～ 4 回の会議を開いています。

私大連での現在の議論は、2020 年に文科省の指導のもとに実施される新テストの導入について、私立大学も加わることによる役割分担等の問題が中心です。新テストとはどういうものなのか。これまでは各大学は伝統的にチョーク＆トーク方式、教員が教壇に立ってチョークを使って話すという一方行的な授業形態が主でした。そればかりでは、およそ自主性、主体性が身に付かないのではないかと。そして、来年には 18 歳未満の人口が減り、2032 年には更に減ってしまう。そうなるとグローバル化という世相を受けて、日本の一般的な国力、特に生産力の面においても厳しくなる。今年の日本の GDP は世界の 6%強です。ものを作ったり、サービスをする力が 6%そこそこです。アメリカは 25%を超え、中国は 17%です。更に 2030 年には日本は 3%、2050 年には 1%くらいに落ち込むだろうと予想されています。このような状況の中、国際間でのものの流通においても窮屈さを感じるようになります。シニア世代は増えるが、ジュニア世代が減っている状況の中で、国力として何を必要としていくのか。一番大事なのは教育だと、現在の内閣は 1 つのスローガンとして掲げています。

そういった中でチョーク＆トーク方式の教育だけでは有意義性が低い。つまり、生涯教育を目指す場合には、ひとつの目安として自分が主体となって学んでいくことが望ましい訳です。受講、すなわち講義を受けるという形態から、学修という形態を持たなければ生涯において主体的に勉強することは難しい。そのためには、アクティブラーニング、いわゆる能動的に授業を展開していくことが求められ、それが大学教育の再生を加速させていくことになる。これは大学に留まらず、中学校、高等学校でもアクティブラーニングを推奨することで、高大接続の観点からより円滑な大学教育に移行していくことが肝要。こういった活力をつけなければ、日本の大卒の若者の本来的な力が劣化するのではないか。あと 20 年もすると、今、存在しない職業に就く学生が多くなると言われています。

そしてロボットなどを中心とした自動的なものに仕事が占拠されてしまうと予想される。医療でもすでに腹腔鏡の手術などはロボットを使い、手ぶれのない手術で安全性を保つというようなことが医学界では常識化されています。介護の領域でもロボットが導入されている施設もあります。人工知能がさらに進化して、学問の分野にも参入していく。あと数年で古文書の 90 数%が解読できる状況に人工知能が発達していくという。そして英語などの言語も機器を通してコミュニケーションができる時代に入ります。文科省の試算では、あと 15 年もすると人が働く時間は 1 週間に 15 時間で十分ではないかというのです。1 日 3 時間働けば、あとは、他のものが自動的にやってくれる。車も自動運転になる時代です。

そのような状況になれば、人間の能力向上について、どのようなことを考えなければならないか。これからの人材は

齊藤 昇（さいとう のぼる）**氏**

◆専門は19世紀アメリカ文学・文化。
◆立正大学文学部英文学科助手（1985年4月）、立正大学教養部専任講師（1988年4月）、立正大学教養部助教授（1994年4月）立正大学教養部教授（1995年4月）、立正大学文学部英米文学科教授（1996年4月）、立正大学大学院文学研究科英米文学専攻Mマル合教授（2002年4月）、立正大学文学部文学科英語英米文学専攻コース教授（2006年4月）、立正大学大学院文学研究科英米文学専攻Dマル合教授（2013年4月）、立正大学文学部長（2016年4月）、立正大学長・立正大学学園副理事長（現在に至る）

【主要著書】
『郷愁の世界ーワシントン・アーヴィングの文学』（旺史社、1993年）『The Literary Pilgrimage of Nathaniel Hawthorne（英文）』（文化書房博文社、1996年）『彷徨する文人たちーアメリカ・ロマン派の文学風景』（エディトリアルデザイン研究所、1998年）『ワシントン・アーヴィングとその時代』（本の友社、2005年）『「最後の一葉」はこうして生まれた －O・ヘンリーの知られざる生涯』（角川書店、2005年）『ユーモア・ウィット・ペーソス－短編小説の名手O・ヘンリー』（NHK出版、2014年）等がある。

【訳書】
『スケッチ・ブック（上・下）』『ブレイスブリッジ邸』『ウォルター・スコット邸訪問記』（いずれも岩波文庫）『わが旧牧師館への小径』（平凡社ライブラリー）等がある。

思考をしっかり形成し、判断力をつけ、それを表現するプレゼンテーションの力もつける。すなわち、思考、判断、表現に力を入れていくために、「新テスト」を導入するという背景があるのです。私立大学では従来はマークシート式が多かったのですが、特に数学と国語は記述式を、英語は外部評価を導入していく。一つの固有の評価ではなく、客観性のあるものを評価していく。大学の授業も一人の先生が判断するのではなく、複数の目で判断するルーブリックのような形式も導入する。こうやって客観性を高めて、安定感を持って学生の評価をしていこうという時代に入ってきました。

立正大学も遅れてはいけません。今、その改革に入っております。

まず1番目には、全学で8学部ありますが、共通してやれる教科をスタンダード化にしていく。それを「立正スタンダード」と称します。熊谷の学生も品川の学生も共通的な知識の保有、そして共通のスキルアップを一層高める。語学であれば、8学部すべての学生が、TOEICを現在の平均300前後くらいのところを将来的には500点ぐらいまで上げていく。教養や資格についても各有名大学に伍して、それを凌駕するような知識を持つ。こういった共通教育をあらためて考えていくことにします。

20数年前までは、立正大学は熊谷校舎に教養部がありました。私は10年間その教養部にいた一人です。あらためて、教養的知識や世界に通じる専門性の高い知的なエピファニーを身につけることが共通項として必要になる時代です。そういった意味でも、若干遅れてはいますが、共通教育のシステムを、来年、再来年と段階的に導入したいと考えています。

それに伴って、新学部を考えていかなければいけない。今年、定員増を行ない210名にしました。このタイミングで定員増を考えている大学は多く見うけられます。210名というのは、平均より少し上かもしれません。総学生数1万人体制を維持するためにはふさわしいであろうと提出していますので、まもなく認可が下りると思います。(7月現在で認可)

それを受けて先に触れたように熊谷キャンパスに新学部を設置する計画を進めています。今年中に本格的に着手しますが、具体的な学部の内容、名称が今年度中に確定しても、設置は2020年が最速です。熊谷において、特に埼玉県北部における文化、その有意義性をどこに求めるのかを把握しながらやっていかなければいけません。ただ、隣近所の大学の真似をして、あれがいいこれがいいではなく、30年、50年、100年の持久性のある新学部、しっかりとした卒業生の出口戦略が伴っていて、埼玉のみならず日本においても世界においても有意義性の高いものを創る、そういった新学部設置を企画しております。

そのような状況の中で、立正大学は5年後に開設150年を迎えます。その節目をどのような形で通過するか。これはステークホルダーの皆様方が自分の母校であり、少し変わったこともやるけれど、やがてテンションが上がってきたと、周辺にもお声がけをして、我が立正大学の向上に対して、なんらかの形で関わってもらう、いわば一層の熱意を持っていただけるような大学に変わっていかなければいけない。立正大学が世間から、前よりは「良くなった」という印象を持たれる大学になるためには、なにか革新性の高い取組みを今の時点でしなければ難しいと思います。それには何よりもスピード感が必要です。

1. 立正大学の現状

①キャンパス構想と学生数1万人体制

⑴ 1万人体制について

日本で1万人以上の学生数を持っている大学は、800校中50校くらいです。1万人はひとつのラインです。そのために、すでにお話したように210名の増員を含めて、新学部を考える必要があります。しかし、1万人を維持するためだけの目的で新学部をと考え、学生の質保証が劣化してしまっては元も子もありません。一人ひとりの学生の質保証を担保できる条件のもとに1万人体制を堅持したいということです。

⑵グローバル化とグローバル人材の育成

今の政府にはグローバル化に対応できる大学とそうでない大学を種別しようという動きがあるように思えてなりません。例えば、経済・商業ベースでいうと、日本が世界に通用する自動車と半導体といったものは国際展開できる。ところが、地域密着系の小売業は国内でもやっていける。大学もそういったものにしていけばいいのではないかという考え方が拡散しました。大学は旧帝大を中心に世界で通用する、世界ランキング上位にある大学にグローバル化の潤沢な支援、助成をして、あとはそこそこにしたらいいということではよろしくない。これには私は異論を挟みたいと思っています。

そういう動きがあったとしても、立正大学はグローバル化の路線を逸脱して教育や研究体制を矮小化するつもりは毛頭ありません。むしろ、グローバル化を意識した研究体制にするために、教員の研究姿勢はドメスティックの意味合いに留まってはいけない時代です。

理系の先生方は世界に向けての論文を発信して、自分の論文のインパクト、その高さを競い合ってきました。いまや人文系だからといって日本語による論文だけでいいという時代ではなくなりました。人文系の学問であっても英語で世界に広く発信していく。世界におけるその分野の中でどのくらいの位置付けがなされ、レビューをもらえるか。こういったトライアルを各教員がしていかなければどうしようもない。自分が研究しているものを狭い領域でプレゼンをする、これも有意義性は高いのですが、今は世界中の大学がスピード感を持って英語というツールを使い世界に発信する時代です。

さて、来年早々には、『立正大学英文学術叢書』を刊行します。これは大学の研究資金で、先生方がこの研究をというものがあれば応募していただく。今10名くらい応募がありました。英文が苦手な先生がいますので、各分野の翻訳の専門家に英語に翻訳してもらい、世界のメジャーな大学と研究機関に1,000部ほど配ってそのレビューを見たい。学部規模でやっているところはありますが、大学規模での企画は珍しい。立正大学は大学として英文叢集を世界に向けてのグローバル化を考えております。

また、学術における環太平洋という言葉を使っていますが、ベトナム、タイ、フィリピン、台湾、中国、韓国、ハワイ、ニュージーランド、オーストラリアをターゲットとして、学術交流を一層広めていく礎を、去年から担当副学長の髙橋先生が海外に足を運んで交渉を重ねています。

こういった形で、立正大学がグリップを握れるような形で、5年後あるいは6年後には、ハワイで国際学術大会をやり

たいという私の希望もあります。
いずれにしても、立正大学は１万人体制の下でグローバル化をより一層推進してまいります。

②品川キャンパス

⑴ ６学部とキャンパス拡大

品川キャンパス

品川キャンパスは法学部が移設を完了して６つの学部となりました。熊谷キャンパスは地球環境科学部と社会福祉学部になり、地域の方々からは寂しくなったと言われます。熊谷の地に縁を持って 50 年経ちますが、立正大学だけが頑張っても限界があります。これからの大学と地域の発展は行政の力も借りなければ難しいこともあります。

⑵立正大学と地域連携

・品川区との連携

品川区との連携については、たとえば文学部社会学科は単独で連携を持っています。東京オリンピック･パラリンピックを前にして、熊谷には社会福祉学部がありますから、パラリンピック関係のボランティアと学生のジョイントができないものか。品川区が会場になる可能性が高いと言われていますので、立正大学にぜひ援助をと言う話は個別のレベルではありますが､まだ正式にはその詳細を伺っていない状況です。

・他大学との連携

品川区を中心とした他大学との連携については、私が去年学長に就任してから品川区にある４年制大学とはできるだけタイアップしていきたいと、品川区に申し上げてきました。そんな中で、濱野品川区長が音頭をとって下さり、医学部を持つ旗の台にある昭和大学、戸越銀座にある星薬科大学、五反田の清泉女子大学と立正大学の４校で連携締結することになりました。まずは学生レベルでタイアップしていくということです。

これと前後して、清泉女子大学には積極的に立正大学との単独の交流をしたいという希望があります。学生だけでなく、学術交流、教員、職員も含めて SD 的な交流をしたいとの話があり、また、星薬科大学からも薬学だけでなく、薬局店を設置する場合の経営学的なノウハウを立正大学からレクチャーを受け、それを単位化したいという話もあって、積極的に進めています。まだ昭和大学からは個別にありませんが、まもなく何らかの動きがあるのではないかと思っています。

・単位の共通化等

こういった連携が進めば、１年後あるいは２年後には立正大学の学生が女子大である清泉女子大学で、薬学部のある星薬科大学で、医学部のある昭和大学で授業を受けることが可能になり、立正大学が保有していない科目も受講でき、一定の単位の制限の下で卒業に向かって有意義性を持てることができます。

その実現のためにはいろいろな課題をのり超えなければなりません。単位の問題、相互的な学術環境の問題、誰が教員として出講するのか、むこうからの教員をどういう形で迎えるのか。これから細かいところは事務調整になります。

大枠としては、そういった連携の中で、一つの大学が持っている知識・知見だけでなく、他大学が持っている知識・知見にも関わって、学生にとっては立正大学だけの単位ではなく、異なった科目の単位も受講できて幅ができたという満足度も高いと思っております。

⑶立正中高の馬込移転と地元での評価

立正中高 馬込キャンパス

立正高校は定員をかなりオーバーしていますが、中学校は定員を少し割っています。50 人や 60 人は国立大学・有名私立大学への進学を希望しています。立正大学の付属校ですので、当然高大接続で多くの付属校の生徒さんたちには受験をしていただきたい。以前はかなり限定的な人数でしたが、来年度は 100 人の生徒を立正高校から迎えたいと思っています。高校側にも教育をしっかりやっていただいて、私ども迎える方も高大接続の意味でアクティブラーニングを一層進めてまいります。タブレットもリアル教材も用意します。立正大学に入った時にタブレットも知らない、リアル教材もないとならないように、全学部対応できるように整備したいと思っております。

③熊谷キャンパス

⑴熊谷キャンパス開設 50 周年

熊谷キャンパス

早いもので熊谷に開設されて 50 年。昭和 39 年頃、熊谷に立正大学がキャンパスを持とうということでした。当時は石橋湛山氏が学長でした。教養部の開設の候補地として八王子もあれば町田もあった中で熊谷が選ばれました。熊谷の齊藤家の家を移築した有隣館に昭和 41 年 10 月に作家の檀一雄氏が来ました。有隣館に泊まられた第一号と聞いています。そして、42 年に立正大学熊谷キャンパスが教養部を中心にスタートを切りました。当時、3,000 人近い学生がキャンパスを賑わしていました。教養課程 1、2 年は熊谷キャンパスで、私もそこで学ばせていただいた一人です。

⑵立正大学と地域連携

・熊谷市、東松山市（大東文化大学）

今春、森田東松山市長のもとで、東松山にキャンパスを持つ大東文化大学と熊谷にキャンパスを持つ立正大学が地域や人材育成を活性化していきましょうということで、包括協定の調印をいたしました。

立正大学は熊谷エリアの意識が強くありますが、熊谷キャンパスは行政的にはその半分は東松山の管轄でしょうか。ある時、ツーリングクラブの学生が一時限に間に合うようにと雨上がりの路上を走ってトラックと正面衝突し亡くなるという不幸な事故がありました。このとき対応していただいたのが東松山署でした。いろいろな会合を開いていろいろケアをしていただきました。東松山市とは地域的にも遠くはない関係です。そのような話を市長といたしました。

大東文化大学は本拠地が東松山でもあり、東松山市とは以前からいろいろな包括協定を結んでおられます。

⑶強化スポーツ（野球･サッカー･ラグビー･女子ラグビー）

野球では春季リーグ１部入れ替え戦で専修大学に勝利を収め、2010 年春以来、１部に返り咲きました。監督の坂田

さんも感激しておりましたし、青木コーチも胃が悪くなるほど緊張したと言っておりました。スポーツの持つパワー、大学スポーツにおける求心力は数量では測れません。こういった場面に接して、大学としてもいろいろな部分で頑張っていかなければいけないというパワーを頂戴する一瞬でした。

ラグビーも来たる東京オリンピックに向けて頑張っております。現役でも立正大学の女子が出場出来る事を願っています。またサッカーも頑張っているところです。

飾られているトロフィーなど

2. 立正大学の未来

①立正大学 150 周年に向けて

・立正大学ビジョン 150 と 8 つの分科会

共通教育はしっかり構築しなければいけない。新学部設置に伴い質保証は絶対的にしなければいけない。スポーツの強化もしかりです。

概して、立正大学生はおとなしめで真面目という印象が強い。今年入った教職員のアンケートを見ると、立正大学のイメージは「真面目」という記述が多い。しかし、この特性だけでは勝負はできない。無論、それは最も尊い気質ではありますが、もっと前に出ていく気質も必要な時代です。アメリカのような先進国はデモンストレーション、プロモーションの志向が強く、日本人は控えめと言われていますが、特に立正大学生はその気質が強いようです。学生にはもう少し自信を持ってほしい。

しかし、頑張れ、自信を持てと言っても持てるものではない。質を高める、それには、この学部に入って自分にはこういう技能が身に付き、同時にジェネラルなもの、教養、そして語学の平均点もある程度の高さを保持している、これも立正大学のカリキュラム、スタイルに身を置いたおかげである、そして自分もひとかどの努力をすれば、日本で、いや世界で貢献できそうだと思わせるような教育を施して出口に持っていきたい。ですから、全学共通の大学として、執行部として責務を果たす教養や資格、語学のシステムをしっかり固めていきたいのです。

そのために「ビジョン 150」ということで、毎週土曜日に細かい会議を展開しております。

②立正大学ブランディングプラン

5 つのテーマ

鎌倉、立正大学、ネパール交流、ウズベキスタン学術交流、石橋湛山、自然栽培

ブランディングには 5 つのテーマがあり、それぞれ有意義に展開しております。特に理事長肝いりの「自然栽培」。バスの停留所に「自然栽培」のプレートが立っていますが、今は小さい箱が 3 ～ 4 個ですが、それが大きな建物に変わる様に努力しています。

自然栽培試験場

かつては、トイレや食堂は大学の主業には関係ないと言われましたが、今はどんなトイレでどんな学食でどんなスペースがあるのか、有用なコモンルームがどのくらいあるか、こういったところも大学のプラスの特徴になります。外部の方が大学を訪れて、大なり小なり「オッ!」と驚くような大学であることが必要です。立正大学も熊谷や品川のキャンパスに来て「他の大学と違うのはこれだ!」と静かな驚き、あるいは大きな驚きを持たせることが必要でしょう。品川キャンパスでは 1 つのビルを買いました。数年計画で驚くような学術施設を検討しているところです。

③箱根駅伝へのチャレンジ

いろいろな意見がありますが、特にステークホルダーの同窓会、校友会、宗務院関係の方々には賛成していただいていると思います。一番のハードルとなっているのは、受け入れ体制に関わるシュミレーションです。そこで執行部で担当者が丁寧に計算をして「箱根」実現に向けて可能性があるという結論になりました。去年の 6 月に大学の役員会がありました。そこで「箱根」出場に向けて検討する議題で了解を得ました。それから小委員会をつくって、スタッフがいろいろな人を集めました。

私も全国学長会議で、特に東洋大学や駒沢大学など、「箱根」で成果を上げている大学の学長の方々と話をしました。駒沢大学の広瀬前学長から電話をいただいて「大八木監督をレクチャー役で出校させます」と。名将大八木監督のレクチャーを受け、さらにいろいろな方々の意見も伺い、「箱根」に出場している大学の学長の方々の意見も伺い、それらをもとにスポーツ振興だけでなく、教学的な意味合いはどうかということも検討しています。

芦ノ湖 箱根駅伝の碑

「『箱根』をやってよかった。それが一つのきっかけになっていると思いますが、学生が集まってきて教学的な意味合いでもにわかに『箱根』の影響を指摘するのは困難ですが、まず学生たちが活性化している。やる気が出ている」と言っている実施校の関係者が多いです。

私が教養部にいた頃は、体育の先生が中心になって「箱根」を目指していました。

立正大学の学生は、先にも触れましたが、真面目ですが地味なのです。私の夢でもありますが、いつか複数の有力なメディアに「立正大学」の 4 文字が躍る、そして、大きな声が聞こえる。この瞬間、立正大学の求心力は一層高まります。

「箱根」をやるよりは教学の方を充実させてほしいという意見があります。それも当然実行します。「箱根」を一つの求心力、牽引力として立正大学の名を全国区に持っていく。関東だけの立正大学で頑張るのは厳しい。ネットでも出願できる時代に入りました。沖縄でも北海道でも「立正大学を知ってるよ。「箱根」をやっているじゃないか」と。野球やラグビーだけでなく、日本のスポーツ文化として、また一つの風物詩として、1 月 2 日と 3 日、30％を超える視聴率、誰もが注目するその瞬間に立正大学の選手たちが登場する。5 年を目安として「箱根」本戦出場の実現に向けて鋭意前進しています。

こうした機運の中で、必ず立正大学はアテンション、注目を独占します。昔のようにメディアが少ない時代ではなく、今は自分でネットで検索できます。そうすると、この大学は 8 学部あって、大学院も充実していて、国際的にはそんなことをやっているのか、新しい組織をつくろうとしている、全学共通を目指している、質保証はどうやる、こういうところの注目度を一気に強めたい。「箱根」だけではないとは思いますが、今のタイミ

ングでは「箱根」は極めて有力、優良な手段だと考えています。できるものならやりたい。できないものならしょうがないが、できるのならやったほうがいいと思っています。出場実現に向けて一所懸命頑張りたいです。

3. 立正大学同窓会に期待すること

会場内の様子

私からリクエストをするならば、皆様方のお心プラス寄付です。これが大きいと思います。立正大学は開校 150 周年を 5 年後に迎えます。この時に建物も変える、学修環境も変える、そこに「箱根駅伝」が参入する。150 周年の行事の一つとして、一つの節目として、立正大学が高らかに旗を上げるこの時に、大学だけで頑張ってほしいでは少し厳しい。特に校友の皆様のお力が大事です。「私の 1,000 円、2,000 円が『箱根駅伝』の走りに関わるのだ」という気持ちが 10 万人、20 万人のご父兄、同窓の皆様の中にあれば実現します。この熱意があれば、立正大学はいろんな面において明らかに変わります。大学が変わった先には質保証が必ず待っている。そういう改革を今しています。単に「箱根」を走るだけではないのです。

政府は今年スポーツに 5 兆円計上しています。東京オリンピック・パラリンピックまでに 15 兆円計上します。この中で、大学スポーツの意義を持ってくれと関係者たちは言っています。こういう中でできる大学は、野球か「箱根」が一番いい。1 年に 2 日間の 1 月 2 日と 3 日、この時の知名度の上がり方によって大学の将来像が大きく変わるのです。

立正大学にできないはずがない。145 年の歴史を有し、資産を然るべき運用で適正にやってきた大学です。「箱根」をやっても意味が無いなどということがあるはずがない。やるなら今だと思っています。これを逃すと改革はかなり制限されます。今できなければ将来もできないと思います。できるものならやらせていただきたい。それには同窓会の皆様の想いが「箱根駅伝」を実現に向かわせると思っております。野坂会長をはじめ、各学部の同窓会長の先生方、同窓会の皆様方、何卒よろしくお願い申し上げます。立正大学を一層高みに持っていく一つの大きなきっかけにしたいのです。

同窓生同士の地域連携等

同窓会の皆様におかれましても、規模を大きくして若い方にも入って頂けるように考えなければいけません。総会は去年は東京、今年は熊谷、来年は熊本と聞いています。私も地方に行ってお話をさせて頂き、ご意見を頂戴して、同窓会の層の厚みを増したい。ベテランの先生方のお集まりに、後輩たちを入れてコミュニケーションの輪を広げる。同窓会長よろしくお願い致します。

同窓会の層が厚くなれば、卒業生も強くなる。在校生も強くなる。教職員も強くなる。自信を持つことが一番大事だと思います。ぜひ、同窓会の皆様におかれて、立正大学という 4 文字を高らかに挙げてまい進して頂ければと思っております。

最後に

今年の 10 月には全国仏教系の学長が集まってシンポジウムを 2 日間やります。去年は名古屋の愛知学院大学が幹事校でしたが、今年は立正大学が幹事校です。千葉の淑徳大学を会場にお借りします。私の責任の下でテーマを選ばせていただきました。1 日目は日本を代表する仏教学の権威である東京大学仏教学部教授の箕輪先生に基調講演をしていただきます。その講演の内容を受けて、2 日目には駒沢大学長、そして東北福祉大学長、淑徳大学長、高野山大学長、立正大学の齊藤がシンポジウムで 2 ～ 3 時間話します。

内容は一点。「日本における仏教系大学のミッションを明確に発信したい」。

先にも触れましたが、私大連は 123 校ある中に、これまで仏教系大学の理事が皆無でしたが、今年の 3 月に龍谷大学が理事校の一つに選出されました。龍谷大学は立正大学の倍、すなわち 2 万人の学生を持つ大学です。今は六大学とキリスト系の大学の理事の方が多いです。日本の大学で教育をしていく上で、宗派云々ではなくもっとリベラルな、日本を代表する仏教教育をベースにした大学の考え方や意見がないがしろになってはいけない。そういった意味では、仏教系大学の先生方が、10 月に一堂に集まって旗を揚げませんかという提案に皆さんが賛成していただきました。

そういう意味でも、立正大学も仏教系大学の中でしっかりとした学修環境を整え、またくどいようですが、「箱根」に出場して、「日本の大学の中に立正あり」、150 年を経過しても今後 50 年、100 年に向けて十分に頑張っていける大学であるというプレゼンをしてもよろしいのではないでしょうか。私はこれを念願として、学長の任期の中ではしかるべき責任を果たしていきたいと思っています。

質疑応答

Q：お話を伺って大変嬉しく思っております。「箱根」の件はちょっと無理かなという話が今まででしたが、今日話を聞いて、支部に帰って寄付についてもやりますので、なんとか出てほしいと思いますので、その方法などを PR して頂ければありがたいのですが。

齊藤：PR と言えば、先ほど申し上げたことで、できる限りの時間を使って理解頂けるように尽くします。そういった意味で、「箱根チャレンジ」のポストに清き一票を頂き、必ずや実現に向けていきたい。実際、今は有力な監督候補はいます。

いかに大学が「箱根」「箱根」といい、同窓会のみな様が応援していただいても、学部の受け入れ態勢が整わなければどうしようもない。とにかく理解を賜るしかないのです。1 年で 10 人、4 年で約 40 人の学生を採れば、5 年後 6 年後には出られるだろうと専門家も入った会議で言われています。しかし、受け入れてもらえばの話です。8 学部が嫌だと言ったら無理です。ですから私も丁重に説明を尽くしていく所存でございます。

環境が整い、入った学生に教育の質保証を必ず担保する。野球で入ったから、「箱根」で入ったから学力は・・・なんてことを言われないように学修環境を整えるのが私の責任です。それは約束します。受け入れて頂ければ必ずすべてがうまくいくと思っております。何よりも入ってきた学生が活躍することで得られるネームバリューの高さはお金で換算できないと思います。これは立正大学のこれからの力強い勢いを中途半端にしないための大きな原動力になると思っています。今後も進捗状況の報告をさせて頂きます。

ご挨拶

立正大学同窓会会長　野坂 法雄

今こそオール立正一丸の覚悟を

全国各地に於いて活動されている同窓生の方々、本当にご苦労さまです。夫々のお仕事と貴重なお時間を割いての貢献に、心より深く感謝申し上げます。

既にご存知の通り、少子高齢化にともなう状況は、大学の運営、同窓会活動に深刻な影を落としています。

間もなく迎える150周年に、大学の将来を明るく希望に満ちた事業として、新学部の増設が計画されています。更に全国に「立正大学」の名を高めるべく、『箱根駅伝』参戦を目指そうと、関係者一同その実現の為に、精魂こめて努力を重ねています。

これからの大学は、その特徴、魅力、個性の豊かさが求められている中で、この計画は大変強力なものと言えるでありましょう。同窓会としても、この実現の為に全力を挙げて協力をしてまいります。どうか会員の皆さまにも、力強い応援をお願い申し上げます。

私はこのところ『耳にタコができる』と言われる程、あらゆる機会をとらえて申し上げていることは、厳しい大学の運営を支援する為に『入口』のご協力をお願いしています。どうか皆さまの周囲、地域から入学生をお送りいただきたいのです。今や同窓会会員は10万人超と発展してまいりました。どうか皆様の周囲、地域から入学生をお送りいただきたいと思います。

同窓会といたしましても、大学と共に『出口』に対しまして、可愛い後輩を皆様のお力で就職にお導きいただきたいのです。『源遠ければ流れ良し。』立正大学の遠源を訪ねれば400年に及びます。この流れの中軸を成すのは豊かな宗教情操です。立正（正しきを立て）安国（匡・社会・地球を安らかに穏やかに治める）このように優れた人材を世に送り出してまいりました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

吾が同窓会の運営にも幾多の問題があります。時代の移り変わりの中で、組織面、会則面等、実情に即さなければならない部分が出てきました。既に会則では、役員の任期を1期3年2期までと改正し、取り組んでいる仕事を成し遂げられるようにしました。

まだまだ多くの問題に取り組まなければなりませんが、一つ一つ堅実に進めてまいります。尚一層のお力添えお願い申し上げます。

立正大学同窓会主催

「立正大学物故者追善法要」開催報告

6月15日(木)立正大学品川キャンパス532教室にて、立正大学同窓会主催「立正大学物故者追善法要」が行われ、導師を野坂同窓会長が、副導師を赤羽仏教学部同窓会長と浅井仏教学部副会長が、式衆、知堂を仏教学部同窓会の方々が務めました。

法要には、大学関係者、卒業生、在学生および、地域の方々など、総勢140名が参列し、立正大学に関わる全ての霊位に祈りをささげました。

法要の様子

法要中の在学生・卒業生の様子

来賓

来賓

平成29年度

立正大学同窓会定期総会報告

立正大学同窓会広報委員長　齊藤 岐代未

古河学園理事長による挨拶

平成29年度立正大学同窓会定期総会が6月24日（土）に、設立50周年の熊谷キャンパスにおいて開催されました。会場のゲートプラザ1階（1011教室）には、全国からたくさんの同窓生をお迎えすることができました。

当日は、例年通り3部制の日程で執り行われ、来賓として古河理事長、齊藤学長、永田副学長、川野地球環境科学部長、髙村名誉教授、二ノ宮同窓会名誉会長が出席されました。

1部　立正大学校友会主催講演会

立正大学の現状と未来という演題で、齊藤学長から『大学を取り巻く環境は、少子化、18歳人口の減少、全入時代の出現、第3者評価の先鋭化などにより、立正大学の存在意義が問われる』と講じられました。それは、大学の個性化を追求せざるをえない時代に直面していることを意味しています。今後、積極的な『戦略』を立てて取り組む必要が大きいということです。しっかりとした軸をもって学生の満足度を向上させ、研究の活性化、産官や地域との連携を図り、立正大学の強みを明確にする。つまり、『不易流行』に重きをおき、『選ばれる大学』としての立正大学の強みをステークホルダーに伝えると言うことが重要だということでした。改革をしない・特徴のない大学は衰退するということです。大学と一心同体の同窓会にとって、大学が衰退することが無いよう、入学者を増やすことは、重要な使命なのです。当然のことながら、同窓会は、大学と社会の架け橋となるよう、自らが改革をすることが必要です。そのため、同窓会のあり方の検討を始めました。困難な課題も多いと思いますが、共に考え、取り組んでいきましょう。

齊藤学長による挨拶

講演中の様子

2部　定期総会

開会の言葉に続き、物故者追善を仏教学部同窓会に執り行っていただきました。その後、秋田県支部と富山県支部の活動10周年を顕彰し、野坂同窓会会長から表彰状が授与されました。

追善法要の様子

続いて、議事運営のための議長団を選出し、平成28年度活動報告と決算報告があり、さらに29年度事業計画と予算の報告がされました。これらの報告について、多くの質問や提案がなされました。同窓会本部理事会は、質問者等から活動の方向性について、有益な課題をいただいたと真摯に拝聴しました。

10年支部表彰の様子

3部　全国から参集した同窓生の懇親会

10号館食堂（ステラ）において、埼玉県支部役員の主導で、懇親会を開催しました。記念撮影の後に、二ノ宮啓吉同窓会名誉会長の乾杯、和気藹々の雰囲気の中、120名の同窓生が懇親を深めました。

二ノ宮同窓会名誉会長

翌25日には、埼玉県支部役員のお骨折りで、長瀞ライン下り、川の博物館、歓喜院聖天堂を、38名で巡ることができました。参加者は笑いと歓喜とびっくりが交差し、親交が深まる楽しい散策をいたしました。

懇親会の様子

集合写真

平成 29 年

熊谷キャンパス（校舎）50周年記念イベント 埼玉県北部めぐり

移動用バス

長瀞ライン下りの様子

長瀞ライン下りの様子

長瀞ライン下りの様子

長瀞ライン下り　亀の頭

川の博物館

川の博物館　水桶を担いでみよう

昼食風景

妻沼聖天山　国宝

妻沼聖天山　集合写真

同窓会支部総会開催報告

【 青森県支部 】

- 8月19日(土)
- 八戸市 八戸パークホテル
- 三澤金一郎副会長出席

【 山梨県支部 】

- 7月29日(土)
- 甲府市 ホテルベルクラシック甲府
- 講演会:「埋葬の歴史と現代社会」(長澤宏昌氏)
- 竹藤潔校友課長出席

同窓会学部総会開催報告

【 法学部 】

- 硬式野球部へ牛肉の差入れをしました。

法学部同窓会より、硬式野球部へ2部リーグ優勝、1部・2部入替え戦にて1部復帰に際し、牛肉10万円分の差入れをいたしました。

(平成29年8月31日現在)

剣道部同窓会開催報告

平成29年7月22日（土）、剣道部「創部・戦後59周年（プレ60周年）同窓会」を開催しました。

当日は、定期総会に始まり、来年の創部・戦後 60 周年記念事業に併せて、物故者追善法要を執り行いました。法要では、お亡くなりになられた恩師の江川義忠先生、荒木忠春先生、行田人士先輩をはじめ、諸先輩方のご遺徳を偲ぶとともに、先人の営々たるご努力により現在があることを再認識しました。

来年「創部・戦後 60 周年」（平成 30 年 7 月開催予定）においても、物故者追善法要を大森宣昌先生（元顧問・監督）に導師をお務めいただき執り行う予定です。

皆様のご参列をお待ちしております。

【剣道部 HP】http://ris-ken50.net/

ご挨拶

立正大学郵政会会長　市川 幹

郵政会も順調に目的に向かって
実績を重ねております。

会員の皆様お元気でご活躍の事とお慶び申し上げます。平素物心のご支援に感謝申し上げます。OB 会の活動も活発化・定着化してきております。今年度も経費の都合上品川キャンパスにて支部長会議・総会を同日に開催いたしました。来賓として、全国郵便局長会、渡邊伸司専務理事・立正大学学長齊藤昇先生・副学長池上悟先生にお祝辞を頂きました。又支部活動については、天童温泉にて、東北支部総会・品川キャンパスにて、東京・関東支部総会・兵庫県にて、近畿支部総会等が開催されました。東京・関東支部では、千葉県九十九里海岸（海の家）にて一泊での親睦会を開催いたしました。これからは、現職を卒業した OB・現職の役職 OB・現職の OB の会合を開催予定しています。豊かな再会の場を計画中です。積極的にご参加願います。郵政会学生は 4 年生 4 名・3 年生 2 名・2 年生 2 名・1 年生 1 名の 9 名で活動しています。4 月 1 日熊谷キャンパスに学生全員で一人の新入生の為に集まりました。又就職については、4 年生全員 7 月 1 日に日本郵便株式会社「地域基幹職」に内定を頂きました。校内活動として、5 月 1 日より週 1 日郵政講座を開設致しました。又例年学生と共に全国郵便局長通常総会にも参加し郵政事業に対する「トータル生活サポート企業」である認識を高めました。

立正大学剣道部総会・日本郵便株式会社剣道部合同懇親会が品川キャンパスで開催され、同会監督、立正大学卒和田圭介様（郵政大学校研修部マネジャー）他、部員の方も多数参加され、立正大学・日本郵便株式会社と一体感を全員が感じた様でした。郵政会の下半期の活動予定は新入学生の募集・大学祭に臨時出張所等の支援・学生の資格試験の支援等です。

例年通り会員の皆様のご期待に添うよう努力致しますので、貴重なご意見を頂ければ幸いです。尚「通信文化新報」に記事が載りますので、お読み頂きたいとおもいます。

郵政会は「入学」ー「教育」ー「日本郵便グループ会社に就職」循環型運営をしております。母校の発展の為に郵政会はこれからも活動していきます。OB の皆様のご支援を宜しくお願い致します。

平成 29 年度

橘会保護者懇談会開催報告

今年も、各地で保護者懇談会が始まりました。社会情勢の変化が激しい中、学生のおかれている環境は厳しいものとなっています。その中で、大学の先生方より直接学修や就職についてお話が伺え、保護者同士の情報交換ができるのが、この保護者懇談会です。すでに多くの保護者の皆様からお声を頂戴しており、今回号と次号（1 月 1 日号）にてご紹介いたします。

長 岡 会 場

- 日にち：平成29年5月27日（土）
- 会　場：長岡グランドホテル
- 参加数：26人

保護者懇談会に参加して　内田大介・弘美（新潟県）

2年生となった今年は夫婦で参加させて頂きました。定期総会後第1回目の地方開催が本県となり私共も新年度気分で臨みました。全体会では教職員・役員紹介後、田中橘会会長様よりとても親しみやすい御挨拶と齊藤学長様より大学の目指す取り組みについてのビデオメッセージを頂きました。

次に水上熊谷学事課長様より「大学の近況」をお話し頂き身近に感じることができました。「父母のための就職講座」では草川熊谷キャリアサポート課長様よりDVD上映後詳しく説明頂きました。このDVDでは企業側の内定を得やすい学生、企業が求める人材の声をたくさん聞け参考になりました。息子はユニデンス寮でお世話になり連絡が滞りがちですが、いざという時アドバイスできるようしっかり心に留めておきたいと思います。

その後全員で記念撮影し個人面談となりました。過年度の成績、本年度の履修内容と「授業は欠席ありません」と伺い安心できました。

また今年は円卓設営でしたので待ち時間に保護者同士の会話が進みました。偶然、各学年揃い日頃思っている事を話す機会ができました。特に4年生の保護者の方から他大学を卒業された息子さんと比べて「就活は立正大学は親身ですよ」と信頼を寄せた旬の声が伺え良かったです。

短い時間でしたが充実した内容で楽しい会でした。この会の開催にあたりご尽力された先生方、橘会の皆様に心より感謝いたします。次回も楽しみにしております。

長野会場

- 日にち：平成29年5月28日（日）
- 会　場：ホテルメトロポリタン長野
- 参加数：16人

保護者懇談会に参加して　原田良紀（長野県）

熊谷キャンパスに通う2年の息子の父です。今回長野会場に初めて参加させていただきました。全体会で橘会田中会長の親目線での温かみのあるお話に始まり、大学の近況で最近の活動を知り、「父母のための就職講座」ではキャリアサポート課草川課長より大変分かりやすい説明をしていただきました。自分も会社員として「企業が求める人材」についてわかっていたつもりでしたが、就職講座を聴いて、更にそれを掘り下げた具体的な要素と、それが企業の業種によって異なるのはもちろん、企業規模によっても少しずつ異なるということを知り、それを企業の採用担当者の声（VTR）を聴いたり、それらを分析・まとめた資料で説明していただいたりで、非常にわかりやすい、腑に落ちるものでした。また、その後の個人面談では、より具体的な疑問点について聞けたり、資格などについてもアドバイス頂けたりと、今後の準備や心がけに大変役立ちました。個人面談の待ち時間には保護者同士の意見交換もでき、心配事を共有する妙な安心感が生まれたりして、これも大変良かったです。後日息子と話をしましたが、危機感を共有しつつも、本人志望がまだ定まっておらずこれからですが、今後の中でより良い選択ができるよう、キャリアサポートを活用していきたいと思います。最後にこのような機会を設けてくださり、ご尽力いただいた職員の皆様、橘会の役員の皆様に大変感謝申し上げます。これからもよろしくお願い申し上げます。

福島会場

- 日にち：平成29年6月18日（日）
- 会　場：ホテルプリシード郡山
- 参加数：30人

保護者懇談会に参加して　石川智和・千尋（福島県）

この度、保護者懇談会が福島で開催されるとの事で、初めて主人と2人で参加させていただきました。

全体会、父母のための就職講座と、先生方の丁寧な説明や実際に就職活動されている学生さんのお話、企業の採用担当の方々のお話を聞けた事で、今の息子に足りない事や今から取り組んで欲しい事が明確になりました。私達親世代の頃と就職活動をする時期や、エントリーの仕方など随分変わっていました。今回の講座で得た情報とともに、「保護者のための就活読本」で学び、息子をサポートしていこうと夫婦で話し合う良い機会となりました。

個人面談では、学校生活や成績通知表の事、履修単位のこと、確認したい事柄が多々あったので、とても良い時間でした。送られてくる成績表の数字だけでは理解できなかった事も丁寧に説明して下さったので、安心いたしました。それから、息子がお世話になっているゼミの先生のコメントも準備下さっていて、息子が頑張っている様子や人柄、友人との関わりなど、きちんと見て下さっている事に感銘を受けました。立正大学は、学生1人ひとりと向き合ってアドバイスしていただいたり、サポートして下さる学校だと感じました。

大学内にはキャリアサポートセンターがあり、学生のカウンセリング、情報の収集等をしている設備の整った場所があります。息子もどんどん活用して目標達成出来るよう頑張って欲しいと願っております。

最後に、懇談会を開催されるにあたり、ご準備頂きました職員の皆様、橘会の役員様に心より感謝申し上げます。来年もぜひ夫婦で参加させていただきたいと思います。

盛岡会場

- 日にち：平成29年6月17日（土）
- 会　場：ホテル東日本盛岡
- 参加数：19人

保護者懇談会に参加して　熊谷武治（岩手県）

会の冒頭、齊藤学長がビデオで「箱根駅伝出場を果たして立正大学ブランドの飛躍を目指す」と力強いメッセージを発せられました。近い将来、私たちも子供とともに新春の箱根路で母校を応援できることを心待ちにしております。

「父母のための就職講座」では、吉岡キャリアサポート部長から就活の実態を詳細に説明していただきました。まず、岩手県内の優良企業数社は、「団塊世代の定年退職のピークが過ぎ、今の大学2年生以降は採用数を減らす」とのことから、今後は買い手市場に移行すると思われること、都内数社の人事担当者によれば、「企業の求める人材」とは明るく物怖じしない人・リーダーシップがあり周りから好かれる人でありバイトではなく、「大学で何かを頑張った人」であるということ、面接ではマニュアル通りではなく経験したことを自分の言葉で話すのが良いということ、就活に向けてアンテナを張り、情報を察知すること、立正大の就職希望者の就職率は95.9%（平成28年度）であること、親は子供の考えを非難せずにまずは話を聞くことが大切であるということを知ることができました。

次の「個人面談」では、「勉学とサークル活動とバイト」にバランス良く時間を費やす必要があると感じました。また、ゼミの先生のコメントをお聞きして、「自分の意見を伝える力」を磨くために、立場や年齢等が自分と異なる階層の方々と積極的に話すよう子供に勧めたいと思いました。我が子の学生生活を個別にお聞きできるこの保護者懇談会はとても貴重で有意義な機会であり、今後も継続して欲しいと思います。

この懇談会の開催に当たりご尽力された関係者の皆様に深く感謝申し上げます。有難うございました。

大阪会場

- 日にち：平成29年7月9日（日）
- 会　場：TKP新大阪カンファレンスセンター
- 参加数：13人

保護者懇談会に参加して　山本千恵子（和歌山県）

平成29年度7番目、関西地区の保護者懇談会は、梅雨真っ只中の暑り空の中、新大阪駅からほど近いTKP新大阪カンファレンスセンターにて、7月9日（日）13名のご父母の方々の参加で開催されました。

私自身は、毎年必ず参加させていただいており、今年で3度目になります。5月13日の品川キャンパスでの定期総会にも参加させていただきました。関西地区は毎年、少人数にもかかわらず、丁寧にご説明してくださり、感謝しております。ありがとうございます。

関西の中学校から東京の高校に進学した事もあり、高校の先生より貴校を奨めていただいたのですが、恥ずかしながらそれまで貴校のことは知りませんでした。奨めていただいた後で、色々と調べたりオープンキャンパスに参加させてもらったりすると伝統もあり、素晴らしい大学ということが分かりました。入学してから、周りのお友達を見てもしっかりした真面目な学生さんたちばかりで、そのうえ、このような懇談会で就職サポートを、きっちりとしてくれており、立正大学に決めてよかったと思っております。

保護者懇談会では、ほんとうに色々な情報が満載で、「なるほど、そうしたらいいのね。」など、凄く参考になります。知らない人ばかりの中に1人で行くのは…と躊躇している方がおられましたら、思い切って参加してみてください。個人面談の順番待ちの間に、コーヒー・お菓子も用意してくださっており、他のご父母の方々とお話をさせてもらい凄く楽しい時間を過ごせます。今回も、懇談会終了後もそこに残り閉場まで盛り上がり、その後もホテルの1階で長い間立ち話をするくらいでした。連絡先を交換し、次に会うのも楽しみです。

最後になりましたが、先生方をはじめ、学校職員・関係者の方、橘会の役員の方はお休みの日に大変だと思いますが、このような機会を設けていただき、心より感謝申し上げます。

BOOK&WORKS

『学校を強くする 教育現場からの生の声』

辻村 政志（つじむら まさし）
（昭和 49 年 文学部地理学科卒業）

星雲社
定価　1,600 円＋税

◆ 辻村 政志さんプロフィール

山口県宇部市出身。宇部市特別支援教育連携支援員。
宇部カップ西日本選抜高等学校ソフトテニス大会実行委員長。
1974 年から広島県の私立高等学校に教諭として 5 年間勤務後、1979 年度から 2016 年度まで山口県の県立学校に教諭（25 年）、特別支援学校高等部主事（7 年）、教頭（6 年）として 38 年間勤務。

◆ 内容紹介

県教委との裁判（地裁・高裁）を乗り越えて世に問う、「学校を変えてみませんか、子どもたちの為に。」
高校生に卒業論文を課す学校教育を第一次産業と見なす現場主義を強化する経営感覚に磨きをかける。
山口県の県立学校で長年教鞭をとった著者が、自戒とともに綴る渾身の教育論。

INFORMATION

2017年度校友会費B（卒業生・現元教職員等会費）のご案内

昨年度は校友会費B（3,000円）に約2,545件・7,672,000円のご協力を賜りました。皆様のご協力に深く御礼申し上げます。

ご協力頂きました会費は校友会奨学金、入学記念品、卒業記念品、課外活動助成金等の在校生支援事業および卒業生交流会費用や会報等発送に関する校友会運営費に充当させて頂きます。

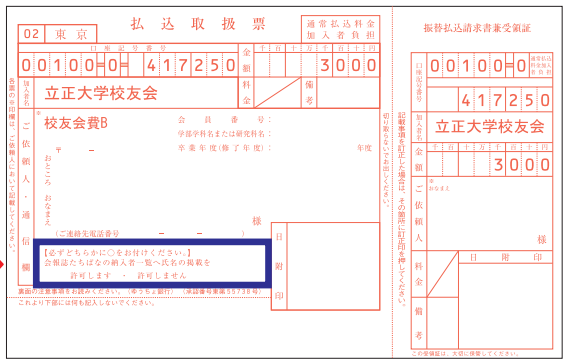
まだお振込がお済みでない会員の方は、専用振込用紙にてゆうちょ銀行よりお振込くださいますようお願い申し上げます。

なお、2016年度より毎号、振込用紙を同封しております。校友会費Bは年会費ですので、4月号より翌年3月31日迄に1度、お振込いただきますと、その年の会費としてお預かりしております。振込用紙は毎回のように届きますが、皆様、一律にお送りしておりますので、ご了承下さい。

記入の際、下記青枠内において、本紙への氏名掲載を「許可する」。もしくは、「許可しない」のご希望をお伺いしております。どちらか片方に○をお付けの上、お申込みくださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

卒業記念品

入学記念品


02 東京　払込取扱票　通常払込料金加入者負担
口座記号番号　00100-0-417250
金額　3000
立正大学校友会
備考
ご依頼人・通信欄
校友会費B
会員番号：
学部学科名または研究科名：
卒業年度（修了年度）：　年度
〒　－
おところ
おなまえ
様
（ご連絡先電話番号　－　－　）
【必ずどちらかに○をお付けください。】
会報誌たちばなの納入者一覧へ氏名の掲載を
許可します　・　許可しません
日附印
裏面の「注意事項をお読みください。（ゆうちょ銀行）（承認番号第679378号）」
これより下側には何も記入しないでください。
切り取らないでおいてください。
振替払込請求書兼受領証
口座記号番号　00100-0-417250
通常払込料金加入者負担
知らせ　立正大学校友会
金額　3000
ご依頼人　様
料金
日附印
備考
この受領証は、大切に保管してください。

校友会会員情報について

ご登録を頂いております、お名前・ご住所・電話番号・勤務先等にご変更および訂正がございましたら、下記までご連絡下さい。

変更届の内容

◆氏名　◆ご住所　◆電話番号
◆メールアドレス　◆勤務先または職業
◆校友会会員番号（校友会報・学園新聞宛名ラベルの番号）

お問い合せ・お届け先

立正大学学長室校友課
〒141-8602　東京都品川区大崎4-2-16
☎ 03 (3493) 6673　FAX：03 (3493) 9068
Email：alu@ris.ac.jp

■専用用紙は立正大学校友会ホームページ（http://alumni.rissho.jp/）からダウンロードできます。

お知らせください

◆卒業生の活動情報やクラブ・サークルOB／OG会開催、卒業生のお店紹介等卒業生の活動に関する情報がございましたら上記お問い合せまでご連絡ください。

【お詫びと訂正】

前号内で誤表記がありました。正しくは下記の通りです。

前号７頁　　同窓会支部総会開催報告
【福岡県支部】　講演会：「21 世紀の社会が求める人材について」

（正）上原 洋祐氏　（誤）上野 洋祐氏

ご本人様ならびに関係各位にご迷惑をお掛けしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させて頂きます。

発行者　立正大学校友会
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
発行人　齊藤 昇
編　集　立正大学学長室校友課
電　話　03-3493-6673
URL　http://alumni.rissho.jp/